

しなののうた

二月号の届く翌日訃報知り後記に記す春を待つとぞ



杉田小百合

しなののうた

六年の長きにわたり新潮の編集長の重責に
嗚呼

杉田小百合



しなののうた

山居にて侘・寂を詠む中村氏楓樹芽吹く森に眠らむ



杉田小百合

しなののうた

善光寺の「御判頂戴」身に承けて我が晩年の健やかなるを

杉田小百合



しなののうた

参道を抜けて寺の蓮池の水面を渡る風の爽やか



杉田小百合